

PIARC 国際セミナー

「都市地域における道路モビリティ・プロジェクトとその環境への影響」

PIARC International Seminar "Road Mobility Projects in Urban Regions and Their Impact on the Environment"

西村 巧¹

Takumi NISHIMURA

1 はじめに

世界道路協会 (PIARC) では、発展途上国へのニーズへの対応を強化し、PIARCの調査成果を広く普及させるために国際セミナーを実施している。PIARCでは4年間を一つの戦略計画期間として様々な技術委員会 (TC) を設置して調査研究を実施しているが、2020年から2023年の期間では各技術委員会は発展途上国で4年間に2回、国際セミナーを開催することを目指していた。国際セミナー「都市地域における道路モビリティ・プロジェクトとその環境への影響」は、2023年5月15日から17日までブエノスアイレスにおいてアルゼンチン道路協会とPIARC技術委員会TC2.1「都市圏のモビリティ」の共催で開催された。また、併せて18-19日にはTC2.1委員会が開催され筆者も出席した。

2 TC2.1「都市圏のモビリティ」の調査成果

TC2.1では2020年から2023年の4年間に3つのトピックについて調査を行ってきた。本国際セミナーでは、それぞれの調査結果であるテクニカルレポートについて発表があった。以下、その概要を紹介する。

(1) 大都市圏における交通行動データ収集のケーススタディ

都市生活の利点を享受するためには、住民の移動性やアクセス性を把握して、日常的なアクセスを確保する必要がある。そのために必要な行動データの収集に着目して、5つの都市圏（モントリオール、プラハ、ボローニャ、ケープタウン、ソウル）の行動データ収集の事例を紹介し、それぞれの調査主体、調査対象範囲、調査対象人数、調査項目、データ管理などの特徴を比較した。また、今後の調査のあり方に関する提言を行っている。

(2) 都市および都市周辺部における道路ネットワーク

を最適化するマルチモーダルなソリューション

都市および周辺部のモビリティは、空間的・予算的制約に直面しており、多様な交通手段（鉄道、自転車や徒歩など）と道路網をより良く統合するマルチモーダルなア

プローチによって、道路網を最適化する必要がある。マルチモーダルな交通結節点、モビリティハブ、道路空間の活用、徒歩・自転車環境など、各国から16事例を収集し、成功要因、効率性、レジリエンス、持続可能性などの観点から紹介された。

(3) 都市および都市周辺部における新しいモビリティの影響評価

近年、世界中でより効率的なモビリティを実現するために、自動運転、電気自動車、MaaS、シェアリングサービスなど様々な交通技術が開発されている。都市部・都市周辺部における新しいモビリティに関するグッドプラクティスを各国から27件収集し、その影響を評価するために用いられた指標や方法論について、持続可能性や資金調達の面から考察された。

3 おわりに

本国際セミナーではTC2.1の発表以外に各国から都市交通施策の最新事例の報告があった。マドリッドの交通改善、温室効果ガス削減を目指す新しい戦略Madrid 360 Environmental Sustainability Strategyの紹介や、都市交通手段として注目されているロープウェイの事例としてボゴタのTransMiCableの紹介などが印象的であった。

参考文献

- 1) PIARC TC 2.1. Case Studies on Travel Behavior Data Collection in Metropolitan Regions - Briefing Note.
- 2) PIARC TC 2.1. Multimodal Solutions for Optimizing Road Networks in Urban and Peri-Urban Areas - Case Studies.
- 3) PIARC TC 2.1. Evaluating Impacts of New Mobility in Urban and Peri-Urban Areas - Collection of case studies.

¹ 交通・社会経済部門 主幹研究員兼グループマネジャー